

ちくりん舎設立1周年を迎えて



測定随時受付中

ちくりん舎は、行政から独立して放射能汚染を監視・測定、情報発信する市民団体・個人の共同ラボです

市民放射能監視センター 【共同ラボ】

〒190-0181 東京都西多摩郡日の出町大久野7444

【事務所】

〒162-0822
東京都新宿区下宮比町3-12 明成ビル302号

電話

080-4616-1280 (浜田)

FAX

042-519-9378

電子メール

lab.chikurin@gmail.com

市民放射能監視センター理事長 浜田和則

昨年10月に設立し丁度1周年になります。当初予定より2ヵ月程遅れましたがACROの人たちそして会員をはじめとする多くの方々の力強い支援により6月には一般測定受付を開始できるまでに至りました。ありがとうございます。

私達を取り巻く放射能汚染の状況は1年前より深刻になってきています。直近では福島第一原発が新たにレベル3に相当する「汚染水」漏れ事故を起こしていることがわかりました。3.11の爆発とベントで放出されたあと、敷地内に閉じ込めていた放射能を「たれ流し」していたのです。それは今も続いています。

当初私達が危惧していた全国への放射能拡散が現実のものになっているといえます。私達のラボに持ち込まれた検体でも関東各地の土からもセシウムが依然として検出されています。また子供の内部被ばくを懸念する市民団体からも尿の測定依頼が来るようになりました。まだ測定受付を始めて4ヵ月余りですが、環境問題、原発問題に取り組んでいる市民団体など多くの方々が、私達の測定に期待を寄せてくださっていることがわかりました。「初志貫徹」でゆっくりでも着実に皆様の信頼にこたえられる共同ラボとして運用していきたいと思っております。引き続き暖かいご支援をお願いします。

第1回ちくりん舎シンポジウムを開催しました

9月22日(日)に第1回ちくりん舎シンポジウムが開催されました。

午前中の見学会には30名以上の方々が参加し、午後のシンポジウムは約100名の参加で盛況なものとなりました。ご参加された皆様ありがとうございました。

見学会は、青梅駅午前10時半集合ということで参加者が十分集まるのか不安な面がありましたが、定員を超える申し込みがありました。

青梅駅から車でちくりん舎まで移動して見学会が行われました。ちくりん舎の居室は一杯でしたので、2グルー

プに分かれて、測定器や測定作業の実際などについての説明と質疑を行いました。

質疑ではゲルマニウム半導体測定器の検出限界についてや、校正の方法など専門的な質問もできました。

約40分程度の見学の後、一行はちくりん舎の周辺の竹林や豊かな自然を少しだけ楽しんで、車で午後のシンポジウム会場に向かいました。

午後のシンポジウムは、ちくりん舎見学組に加えて、直接シンポジウムに訪れた人々が次々に集まり、会場一杯となりました。

目次

- ちくりん舎設立1周年を迎えて……………1
- 第1回ちくりん舎シンポジウムを開催しました……………1
- 参加者アンケートから……………2
- 魚類の健康に及ぼす放射線の影響調査……………3
- ピカピカのラボで信頼性の高い測定を……………4
- ちくりん舎の稼働状況……………4
- ちくりん舎会員募集中……………4



測定器を見学—測定室が汚染されないよう外からの扉越しの見学となりました。



島菌氏の講演を熱心に聴く参加者



茶話会でも突っ込んだ議論が行われた

島菌氏は、祖父も父も医者で、東大入学時には医学部を目指していたが、東大医学部紛争が起こり医学部の体質が問題となるなかで、いろいろ悩んだ末、文学部に転部し宗教学を学んだことを話されました。

福島原発事故後、学術会議や政府、いわゆる「御用学者」達の見解が偏ったものであり、人々から信頼を失う状況を見て、なぜそのようなになるかを網羅的に研究されたことと、その研究の概要をお話されました。

いわゆる「御用学者」には日本国内だけでなく、国際的にも ICRP や IAEA、WHO など主要な地位を占めている国際的「御用学者」がいて、それらが非常に親密な関係にあることを話されました。

特に氏が強調されていたのは、90年

代頃からの大学の独立法人化により、研究者が自ら研究費を確保しなければならなくなった状況のもとで、研究がカネにより支配される傾向が強まったということでした。

記念講演の後、福島老朽原発を考える会（フクロウの会）の青木氏、たまあじさいの会の中西氏からそれぞれの活動についてのプレゼンがあり、その後、フロアからの質問やプレゼンター、島菌氏からのコメントがあり、活発な議論が行われました。

シンポジウム終了後は、茶話会が開かれました。その中では、日本特有のゴミの焼却処分の問題点、官製談合で進められるゴミ焼却場建設が原発と同じような構造であること、焼却場建設計画を地元でどのように阻止するかなど、突っ込んだ話も行われました。

第1回シンポジウム

参加者アンケートから

28名の方からアンケートのご協力頂きました。今後の活動に生かしていきます。ありがとうございました。

アンケートの一部を紹介します。

●たまあじさいの会・フクロウの会の地道な活動に出会えて希望をもちました。本当のことに気づき（この世をいようにあやつろうとする人々に対する）武器になると思います。本日は、ありがとうございました。（女性・60代）

●とても良い企画だったと思います。参加者も多く、「ちくりん舎」への期待を実感します。「ちくりん舎」の立ち上げに協力することができて良かったと思います。（多摩川の調査は大変そうですね）（男性・40代）

●島菌さんの科学者の現状、経済的、政治的利益に優先される状況を興味深く聞くことができました。定期的にご

のようなシンポジウムを開催して頂きたいと思います。（男性・50代）

●島菌先生のお話を聞いて、たまあじさいの会やちくりん舎のような活動の重要性を強く認識させられました。各地の測定所の活動がネットワークを広げ、つながるよう願っています。ラボの見学をさせて頂きありがとうございました。（女性・60代）

●①活動内容が非常に専門的であった。（ハイレベルの活動・研究されていることに敬服）②多摩川の汚染が現実に発表通りであるとすれば、大変な現実であることに驚いた。（知らなかった）→周知するには、どうしたら良いか。③②の件で、これから具体的に活動しなければならない行動は何だろうか。④フクロウの会、たまあじさいの会で学習会があれば出席したい。（男性・70代）

魚類の健康に及ぼす放射線の影響調査

東京大学名誉教授 鈴木 譲



鈴木 譲氏

東京大学大学院博士課程を修了後、水産学科助手、助教授を経て、2000年より浜名湖にある附属水産実験所に教授として赴任。本年3月定年退職。専門は魚類免疫学。1988年より16年間にわたって自宅近くの道路反対運動を展開。昨年より高木仁三郎市民科学基金の選考委員を務める。

放射能汚染は、それと知らずに棲み続ける福島の野生生物にも多大な影響を与えているはず。小さなため池に取り残されたコイの免疫系を解析することで健康への影響を明らかにできないか、こんなテーマを思いついたのは、浜名湖の東大附属水産実験所を退職した直後のことでした。充実した研究資材は活用できないので、できる範囲で個人的に取り組むしかありません。定年後は環境問題に関わっていたいと思い、昨年より高木仁三郎市民科学基金の選考委員に加えていただきましたが、こうした調査は同基金の趣旨にも合致するはず。

この夏、福島県飯舘村を訪ねました。コイから血液を採取して白血球を観察するだけなら一個人でも可能です。

ちくりん舎の近況

ピカピカのラボで信頼性の高い測定を

ゲルマニウム半導体測定器は高精度なため測定室、測定器、測定容器の“微小な汚染”でも誤検出してしまいます。そのため、持ち込まれた検体の測定環境への飛散、付着は最小限にとどめなければなりません。

私達のラボでも8月に検体を入れる容器の汚染が起きました。

そこで、8月の猛暑の中、新しく参加したスタッフも交え大掃除と、測定室のレイアウト変更を行いました。

準備室は棚と天井まで届くアクリル板で他の部屋と仕切り、人の出入りも、“すのこ”でスリッパを履き白衣を付け入室するように、はっきりと区切りました。

しかしせっかくの機会ですので遺伝子解析を九州大学の知人をお願いしました。これらの免疫関連データと、個体毎のセシウム蓄積量とを比較することで放射線の魚類への影響を評価できるはず。そのセシウム測定をちくりん舎に依頼したのです。

せっかくの調査ですから投稿論文となる高いレベルをめざしましたが、不運も重なり今回は不満足な結果となってしまいました。それでもコイ筋肉には最大9600Bq/Kgという高いセシウム濃度が確認されましたし、白血球解析にも確かな感触が得られました。来年こそ完全をめざします。そのためにも、ちくりん舎が信頼性の高い市民測定所としてますます発展して行くことを期待して止みません。今後ともよろしくお願いいたします。

また、測定用の容器や道具は、舞い上がった埃を被らないよう蓋つきのコンテナ容器に保管します。さらに検体の容器への詰め替えは、専用のドラフトチャンバー（局所排気装置）をたまあじさいの会のスタッフに作ってもらい、粉じんが飛散しない対策を行いました。（写真）

以降、異常は見られませんが、定期的な容器のチェック等、恒常的な汚染防止を行っていくことにしました。余談ですが、おかげで準備室や測定室は前にも増して掃除をマメにやりますのでいつもピカピカです。是非一度見に来てください。



整理された準備室で作業するスタッフ。

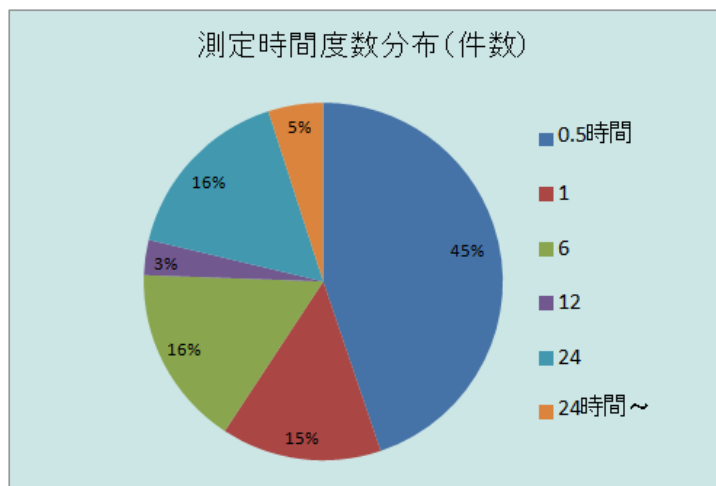


ドラフトチャンバーと防塵コンテナ

ちくりん舎の稼働状況

会員・非会員別測定件数	6月	7月	8月	9月	合計
会員	35	53	40	63	191
非会員	0	0	1	2	3
ちくりん舎管理用測定	9	6	11	7	33
測定件数	44	59	52	72	227

検体種別測定件数	6月	7月	8月	9月	合計
食品	2	10	0	6	18
土壌	23	33	14	30	100
尿	5	10	4	8	27
水	2	0	4	3	9
その他	3	0	19	18	40
測定件数	35	53	41	65	194
ちくりん舎管理用測定	9	6	11	7	33
総測定件数	44	59	52	72	227



ちくりん舎が一般測定受付を開始して4カ月がたちました。測定器操作の実習や、マニュアル作成、測定依頼から報告書作成、測定料金の回収など、本当にさまざまなことを手探りで作り上げて来ました。

4カ月の稼働状況のデータをまとめましたのでご紹介します。

最初の表は「会員・非会員別の測定件数」です。会員の方からの依頼が多くなっています。また、受付件数全体もばらつきはありますが、徐々に増加しています。引き続き測定依頼の拡大に皆さまのご協力をお願いします。

2番目の表は「検体種別」の内訳となります。ちくりん舎の特徴として土壌、尿、その他の件数が多いことが分かります。ちくりん舎の高精度、高信頼性の測定を維持するためにバックグラウンド測定など「管理用測定」も10%以上の件数となっています。

最後の円グラフは測定時間別の測定件数分布です。0.5～1時間測定のものが約60%を占めていますが、一方で水や尿など24時間以上の測定も20%近くあります。

ちくりん舎 会員募集中

測定・事務スタッフ（ボランティア）も募集中

ちくりん舎では会員・賛助会員を募集しています。メールまたは電話、FAXでお問合わせ下さい。

●正会員

団体会員/年会費 1 口 10,000 円
(何口でも)

個人会員/年会費 3,000 円

ちくりん舎の運営に関わり、ちくりん舎を支えていただく団体、個人です。

●賛助会員

年会費 1 口 1,000 円 (何口でも)

ちくりん舎の趣旨に賛同して支えていただく方々です。ちくりん舎のニュースレター、イベント案内等の情報が受け取れます。

カンパも随時受け付けております。

市民放射能監視センター口座

●ゆうちょ銀行

振込口座：00150-5-418213 / 加入者名：市民放射能監視センター / シミンハウシャノウカンセンター

●他行からの振込の場合

店名 〇一九 (ゼロイチキューウ店) / 預金種目：当座 / 口座番号：0418213

Web サイトにてお待ちしております。

Web サイト アドレス：
<http://chikurin.org/>

